

精神疾患及び心身症のある児童生徒の 教育的ニーズに関する研究

—特別支援学校教員を対象とした調査より—

○深草瑞世

森山貴史

土屋忠之

(国立特別支援教育総合研究所)

(青森県立八戸第一養護学校)

(国立特別支援教育総合研究所)

KEY WORDS: 精神疾患及び心身症 病弱・身体虚弱教育 教育的ニーズ

(目的)

全国病弱虚弱教育研究連盟が隔年で実施している、病弱・身体虚弱教育を担っている特別支援学校・特別支援学級に在籍している児童生徒の病類調査では、病弱教育の対象の病類として従来多かった、喘息、腎臓病が激減し、精神疾患及び心身症の頻度が増加し、現在では最も多い対象となっている。精神疾患及び心身症は、教育的ニーズを調査する先行研究(森山, 2016)では、精神疾患及び心身症のある児童生徒への指導経験豊かな教員を対象にしたグループワークによる調査を行い、質的に分析した。その結果、「教育的ニーズ」の項目を6つのカテゴリー(心理, 社会性, 学習, 身体, 学校生活, 自己管理)と38のサブカテゴリーに集約し、38のサブカテゴリーについては精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的なニーズとしての妥当性を認めながらも、調査対象数を増やす必要性等を指摘した。そこで、本研究では、カテゴリー6項目サブカテゴリー38項目の教育的ニーズについて、新たな調査方法と共に調査対象数を増やし、再現性があるのかを改めて検討することを目的とした。

(方法)

1) 調査対象

特別支援学校(病弱)4校に勤務する精神疾患等のある児童生徒の指導に携わる教員112名。その内小学部担当教員は27名, 中学部担当教員は47名, 高等部担当教員は38名だった。

2) 調査期間

3) 調査方法

特別支援学校に訪問し、ワークシートへの記入とグループ作業などで調査を行った。ワークシートについては、森山(2016)の研究で明らかになったカテゴリー6項目とのサブカテゴリー38項目の教育的ニーズの項目を引用し、作成した。

サブカテゴリー38項目の教育的ニーズに関するワークシートを使用し、それぞれの教員が担当した児童生徒の教育的ニーズが、38項目に「当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」のいずれかに該当するかどうかのチェックを行った。

4) 分析方法

先の森山(2016)の研究結果の再現性を検討するため、教育的ニーズのカテゴリー6項目の検証と教育的ニーズのサブカテゴリー38項目の検証を実施した。

今回の分析では、各教育的ニーズに「該当する」割合については、「当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせたものとし、「該当する」割合が50%を超えた項目については「再現性がある」とした。50%を超えなかった項目については、さらに、教員経験年数別, 病弱教育経験年数別, 精神疾患等のある児童生徒担当数別に検討した。

5) 倫理的配慮

調査を行うにあたり、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の倫理審査委員会において承認を得た。

(結果)

1) 教育的ニーズのカテゴリー6項目について

カテゴリー6項目について、いずれも「該当する」割合が、60%以上であった。特に、「心理」は87%と最も高かった。

2) 教育的ニーズのサブカテゴリー38項目について

サブカテゴリー38項目の中で、「該当する」割合が50%以上だったものは36項目であった。50%以下だった2項目は「27. 巧緻性」45.0%と「35. 食事」44.5%だった(Fig. 1)。学部別の割合では、高等部においてはすべての項目で「該当する」割合が50%を超えていた。

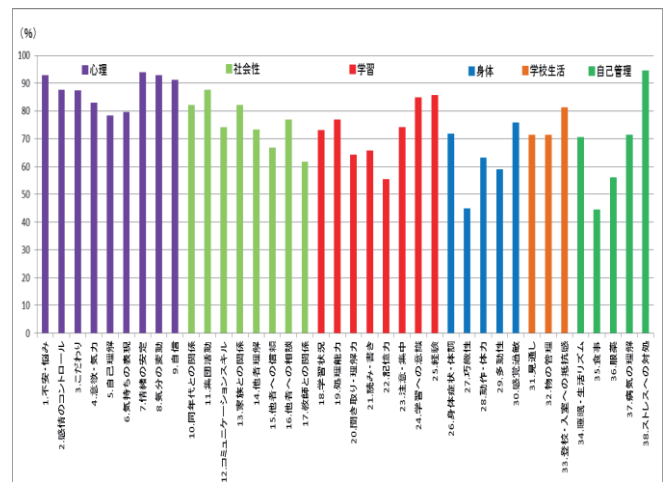


Fig. 1 精神疾患等のある児童生徒の教育的ニーズとして「該当する」と回答のあった割合

50%に届かなかった「27. 巧緻性」と「35. 食事」を教員経験年数別, 病弱教育経験年数別, 精神疾患等のある児童生徒担当数別に比較をした。この比較では、教員経験年数等, 未記入のデータを除外したため、対象者は108名とした。「27. 巧緻性」では、教員経験年数が多い群と精神疾患等のある児童生徒を担当した数が多い群では、「該当する」割合が50%を超えていた。「35. 食事」も同じように比較したところ、教員経験年数, 病弱教育経験年数, 精神疾患等のある児童生徒担当数が多い群では、「該当する」割合が50%を超えていた。

(考察)

本研究により教育的ニーズの再現性の検討を行った結果、38項目中36項目において、半数以上の教員が「該当する」と回答したことから、36項目については再現性があると考えられた。一方で、半数以下であった2項目においても、高等部では、半数以上で「該当する」と回答、また、教員の経験年数や精神疾患等のある児童生徒を担当した数が多い群では、半数以上で「該当する」と回答していることから、年齢によるニーズの変化や教員の経験から得られるニーズの変化に考慮が必要であると考えられる。

(文献)

森山貴史(2016). 精神疾患や心身症のある児童生徒の教育的ニーズに関する一考察—A特別支援学校(病弱)教員対象の調査を踏まえて—. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 第43号, 45-57.
(FUKAKUSA Tamayo, MORIYAMA Takashi, TSUCHIYA Tadayuki)